

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 貿易赤字は前月から増加し過去3番目の高水準(05年8月貿易統計)

発表日: 05年10月13日(木)

~ 原油高と堅調な内需が主因 ~

(No. UI - 118)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: [seiji@d1ri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@d1ri.dai-ichi-life.co.jp))

### 貿易収支(U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/09	519.39	556.27	+36.88	+1.2	(+13.3)	+1.4	0.7	(+17.0)	0.4
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	585.76	626.97	+41.21	+0.5	(+14.2)	+0.8	+2.8	(+18.6)	+2.9
05/02	604.22	647.39	+43.17	0.8	(+9.8)	1.2	+0.6	(+17.1)	+0.9
05/03	540.55	588.94	+48.39	+1.4	(+8.0)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	577.24	623.16	+45.92	+2.8	(+12.0)	+4.2	+4.2	(+14.4)	+4.9
05/05	561.09	607.82	+46.73	0.0	(+9.7)	0.1	1.0	(+11.5)	1.2
05/06	594.93	638.31	+43.38	+0.1	(+12.3)	+0.1	+2.1	(+10.8)	+2.3
05/07	579.60	625.40	+45.80	+0.5	(+10.6)	+0.7	0.6	(+11.4)	0.5
05/08	590.29	638.41	+48.12	+1.7	(+12.1)	+2.1	+1.8	(+10.9)	+2.1

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
04/11	1.0	0.7	2.0	1.4	+0.2	+2.4	+6.6	0.7	1.7	+3.3
04/12	+3.4	+3.2	+3.7	+4.9	+5.2	1.0	4.8	+0.4	+1.2	+0.3
05/01	+0.7	+1.0	0.2	+2.2	+0.7	+2.9	0.5	+4.3	+2.6	+5.1
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+4.6	+5.5	+2.2	1.4	+5.0	+4.6	+7.8	+1.8	+5.1
05/05	+0.0	+1.4	2.9	1.9	+4.7	1.2	5.6	1.9	+4.9	+1.0
05/06	+0.1	0.9	+1.9	+1.2	2.2	+2.3	+5.3	+4.1	0.6	+0.2
05/07	+0.4	+1.5	+0.5	+2.0	+0.5	0.5	+1.4	2.4	+0.4	1.9
05/08	+2.6	+1.0	+3.8	+4.3	0.2	+2.1	+4.1	+0.5	+5.9	0.3

(注) 季調済前月比伸び率。

\*1: Industrial supplies and materials

\*2: Capital goods, except automotives

\*3: Automotives vehicles, parts and engines

\*4: Consumer goods, except automotives

	輸出					輸入						
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		
04/09	+15.5	+14.6	+14.0	+14.7	+16.2	+7.0	+16.3	+12.0	+20.6	+7.0	+18.5	+11.3
04/10	+10.7	+9.1	+10.0	+10.3	+8.3	+16.4	+15.1	+11.3	+18.7	+6.2	+12.1	+6.1
04/11	+7.9	+14.2	+15.4	+4.1	2.7	5.1	+27.0	+22.7	+26.8	+16.5	+24.6	+14.2
04/12	+13.5	+15.3	+14.8	+17.2	+3.7	0.6	+15.9	+13.5	+15.1	+8.0	+16.4	+9.5
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.5	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.6	+12.5	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.8	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6
05/05	+9.4	+12.2	+12.8	+8.6	0.6	4.9	+14.6	+8.5	+16.0	+14.1	+13.4	+8.9
05/06	+13.4	+13.4	+14.1	+12.8	+8.7	+5.2	+11.1	+3.3	+14.1	+9.6	+11.7	+8.6
05/07	+9.6	+5.3	+10.9	+9.7	+7.9	+3.6	+10.5	+4.2	+11.8	+8.2	+9.1	+2.9
05/08	+14.3	+13.6	+14.8	+6.6	+14.8	+15.7	+14.7	+13.1	+15.9	+12.7	+12.6	+8.5

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

590.29 億ドルと  
赤字額は市場予想を  
下回った

05年8月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、590.29億ドルの赤字(前月比+1.8%)と前月から拡大したが、市場コンセンサスの595億ドルを下回った。サービス収支の黒字額が小幅拡大したものの、財収支の赤

字額が大幅に増加した。輸出は、消費財が減少したが、産業資材、自動車を除く資本財、自動車の増加により前月比+1.7%と加速した。一方、輸入は消費財が減少したものの自動車、産業資材、自動車を除く資本財が増加したことから同+1.8%となった。原油は輸入量が3億2581万バレルに増加したうえ、価格が1バレル=52.65と上昇したため前月比+9.5%増となった。

### 今後、原油価格の上昇 やハリケーンの襲来に 伴うガソリン・原油の 輸入急増により貿易赤 字はさらに拡大する見 込み

8月は輸出が化学製品、民間航空機・同エンジン、自動車の増加によって拡大した一方で、輸入が原油、天然ガス、発電機、産業機械、通信機器等の拡大により増加に転じたため、赤字額は前月から拡大した。今後に関しても、原油価格が高止まりしていること、さらにハリケーン「カトリーナ」の襲来に伴うIEA加盟各国の戦略備蓄の放出決定により9月にガソリン、原油の輸入急増が見込まれることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高水準で推移するとみられることから、貿易赤字は過去最高を更新すると予想される。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、

貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レートの減価、が挙げられる。 、 については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため米国以上の高い成長も期待できない。現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。また、7月21日の元切り上げは小幅なものにとどまり、その後も水準がほとんど変わっていないため、貿易不均衡の解消にほとんど貢献していない。

### ドル円相場は年末にか けてドル堅調

年末にかけて、財政支出の拡大による景気加速期待の高まりによって米国の金利が上昇し易いことに加えて、米雇用創出法の2005年末終了に伴う米国への資金還流の増加が見込まれることから、ドル需要が強まるとみられる。一方で、原油価格の高止まりや成長率格差によって貿易赤字の拡大が続くと予想され、経常赤字の拡大傾向に歯止めがかかる可能性が低いこと、日本経済の回復感が一段と強まるなか、当座預金残高の目標額引き下げといった金融緩和策の解除が視野に入ってくると予想されることから、ドルの上値を抑制しよう。

### 対中、欧州、OPECで の貿易赤字額が過去 最大を更新

地域別の収支では、対中国が185億ドル(前年比+20.0%)と過去最大の赤字額となり、20ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった(貿易赤字全体の26.9%に縮小)。対欧州は113億ドル(同+21.7%)と過去最大の赤字額を更新し、欧州景気を下支えしている。今後も、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれるものの、欧米金利差の拡大や欧州景気の低迷から、ドルは対ユーロで強含み易い環境が持続しよう。対NAFTAが109億ドル(同+11.9%)、対日は66億ドル(同+3.6%)と高止まり、対OPECが90億ドル(同+21.9%)と原油価格の上昇を映

じて過去最大の赤字額となった。

**輸出は前月比+2.6%  
と伸び加速**

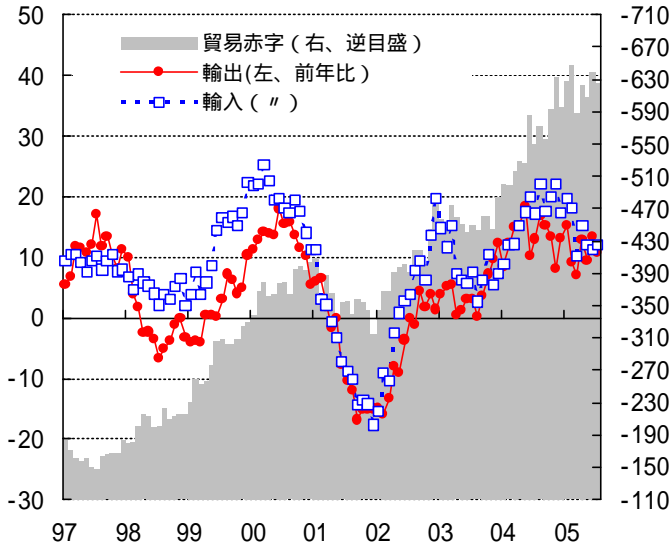
通関ベースでは、輸出は消費財が減少したものの産業資材、自動車を除く資本財、自動車が増加したため前月比+2.6%と拡大した。一方、輸入は消費財が減少したが産業資材、自動車、資本財の増加によって同+2.1%となった。

輸出の商品別内訳では、資本財は、金属加工機械が減少したものの、民間航空機・同部品、半導体、掘削機、通信機器、産業エンジンの拡大により前月比+3.8%と3ヵ月連続の増加となった。自動車は同+4.3%と3ヵ月連続で拡大した。産業資材は、綿、鉄鉄、核燃料、燃料油、天然ガス、石油製品、原油が減少したものの、化学、プラスチック原材料等の増加によって同+1.0%と2ヵ月連続で増加した。一方、消費財は、骨董品・切手が増加したが、ダイヤモンド原石等の減少によって同-0.2%と2ヵ月ぶりに減少した。

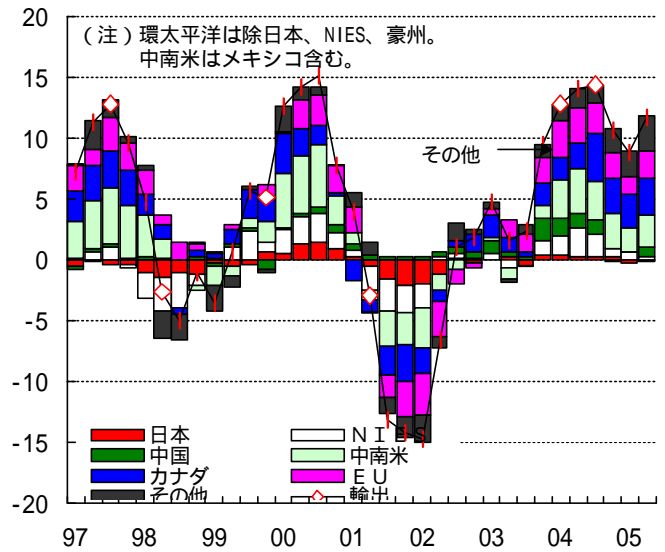
**自動車、産業資材の  
拡大により輸入は増  
加**

輸入の商品別内訳では、産業資材は、鉄鉄、燃料油が減少したものの、原油、天然ガス、石油製品、液化石油ガス、アルミニウム等の拡大により前月比+4.1%と3ヵ月連続で増加した。自動車は同+5.9%と2ヵ月連続の拡大となった。自動車を除く資本財輸入は、民間航空機、半導体が減少したものの、発電機、産業エンジン、通信機器、油田掘削機、民間航空機エンジン等の拡大により同+0.5%と2ヵ月ぶりに増加した。一方、消費財は調合薬が増加したが、アパレル・繊維関連、玩具・ゲーム・スポーツ用品が減少したため同-0.3%と2ヵ月連続の縮小となった。

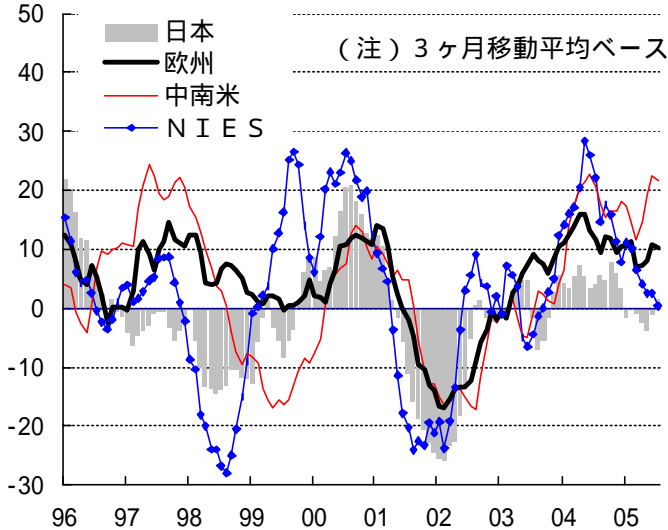
(%) 米国貿易動向(財、BOPベース億ドル)



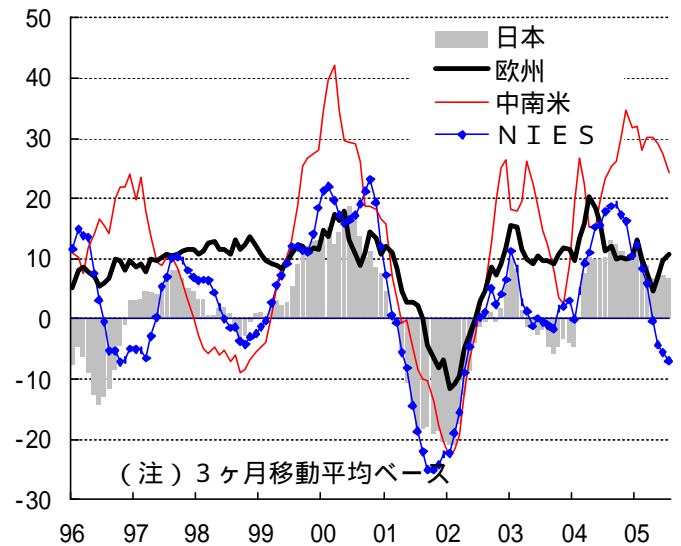
(%) 通関輸出地域別寄与度(前年比)の推移



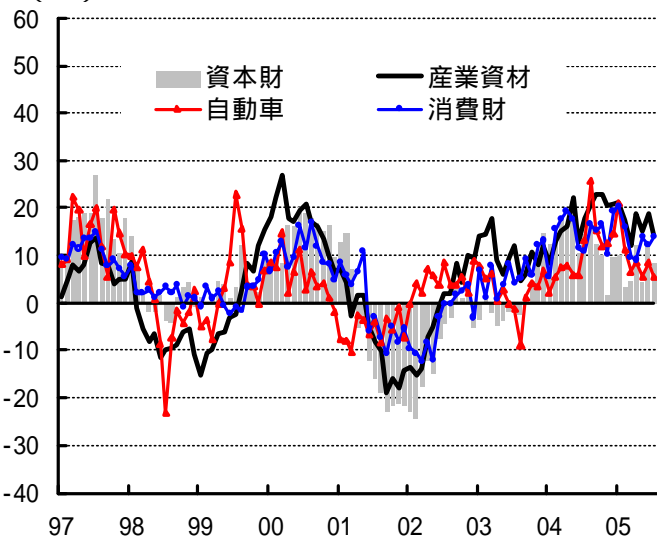
(%) 地域別輸出(前年比)



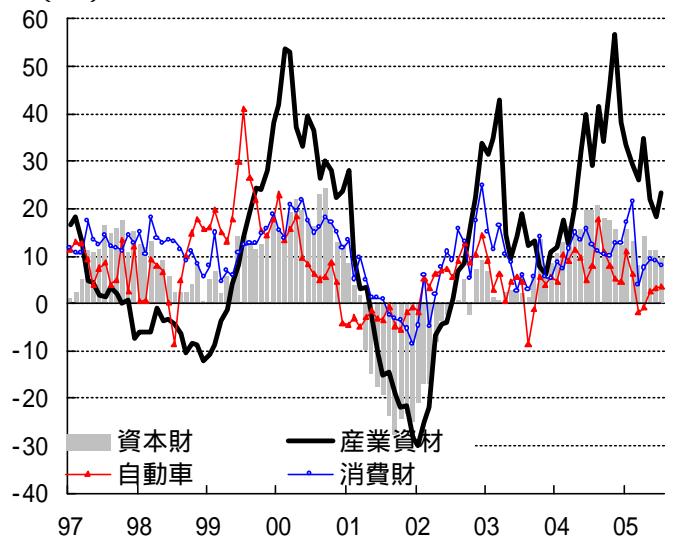
(%) 地域別輸入(前年比)



(%) 財別輸出の推移(前年比)



(%) 財別輸入の推移(前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。